

**Q1-1 面接時には、どのような内容を確認すればよいですか。**

**A** 帰国・外国人児童生徒が一日も早く学校生活に適応するよう、面接時に児童生徒の多様な背景を理解するため、次のことを確認しましょう。

**確認しておくこと**

- 家族構成  
(家族の状況などについて確認しておきましょう)
- 家庭での言語や宗教等、生活文化の状況  
(主に使う言語や生活、文化について確認しましょう)
- 教育歴  
(日本に来る前の最終学年を確実に把握するとよいでしょう)
- 学習状況  
(学力や家庭での学習状況、教科の不得意などを確認しましょう)
- 日本語の習得状況  
(保護者も含め、どの程度日本語で理解できるかを確認しましょう)
- 健康の状況  
(持病やアレルギーの有無などについて確認しましょう)
- 趣味等  
(得意なことや興味のあることについて確認しましょう)
- 滞在予定期間  
(日本の滞在期間について確認しましょう)
- 進路の希望等  
(将来の夢や高校への進学希望などについて確認しましょう)
- 緊急時の連絡先、連絡場所、連絡手段  
(支援者、仲介者、通訳・協力できる人も確認しましょう)

**伝えておくこと**

- 教育課程  
(これまでに学習してきた国との違いを確認しましょう。高等学校等への進学なども踏まえた学習の必要性などを伝える必要があります)
- 学校生活の様子と生活の時間帯  
(主な一日の流れと年間の見通し、学校行事を伝えましょう)
- 当面の学習  
(教科ごとに所属予定のクラスの学習内容を伝えましょう)
- 準備するものや購入するもの、学校に持ってきてはいけないもの  
(実物や写真で示し、購入先を伝えましょう)
- 通学の方法  
(安全マップなどを活用して登下校時の危険な箇所を伝えましょう)
- 昼食  
(給食であればメニューや費用、給食ナプキンなど必要なもの、配膳などについて、弁当であれば一般的な弁当の内容を伝えましょう)
- 集金方法等  
(毎月の納入金額や納入方法を伝えましょう。就学援助の制度などについても説明しましょう)
- 今後の連絡方法  
(今後の連絡方法や連絡手段について確認しましょう)



実物や写真、映像などを活用し、学校生活について具体的なイメージがもてるようにします。

学校側が伝えたいことだけでなく、保護者の要望を十分に聞き取ることが必要です。保護者が日本の学校に何を期待しているのか、子どもの教育をどう考えているのかをじっくり聞くことで、学校に対する信頼感を高めていただけるようにしましょう。

**面接時のポイント**

教育委員会

多言語翻訳システムの確保等、受入体制の整備を支援する。

管理職

全教職員で取り組む協力体制を構築する。  
(学級担任を孤立させない)  
必要に応じて日本語指導担当、栄養教諭、事務職員等も同席する。

学級担任

他の教員や家庭、地域と連携し、面接で得た情報を生かした適切な支援をする。

## Q1-2 学級担任として、受入れ時に、どのような配慮が必要ですか。

**A** 帰国・外国人児童生徒の教育歴は、出身国や同国内でも地域によって大変多様化しています。面接で確認した内容を参考にして、受入れの準備と学級の児童生徒との人間関係づくりを進めることが大切です。帰国・外国人児童生徒が一日も早く学校生活に適應するよう、次の取組をすすめましょう。

### 必要な物を準備しましょう。

面接で対象児童生徒の状況を把握したら、必要な物を用意します。

<例>靴箱、座席、ロッカーの割当  
指導要録、出席簿等の書類の作成  
名前（呼び名）の確認  
母国に関する地図などの掲示や本、辞書等の配置  
登校初日の持ち物、それ以降に必要な物のリストの作成  
校舎案内図 等



すぐに学用品の準備をすることが難しい場合もあるので、ランドセルや鍵盤ハーモニカ、絵の具、制服などをリサイクル等で用意できるようにしておくのも必要な配慮の一つです。

### クラスの児童生徒の理解を促す工夫をしましょう。

日本の学校に編入する帰国・外国人児童生徒は、不安な気持ちを抱えています。言葉も文化も生活習慣も違う世界に一人で飛び込むようなもので、編入当時は、緊張の連続でストレスを感じているかもしれません。緊張を和らげ、本来の自分をクラスの中で発揮できるようにしてあげることが大切です。ただし、性急な取組は逆に児童生徒のストレスにつながる恐れもありますので、ゆっくりと様子を見ながら受け入れましょう。

<例>・対象児童生徒のいた国のこと、生活のこと、食事や友達のことなど、現地での体験談を聞く時間を設ける。  
・対象児童生徒が話したがらない場合は、保護者と連携をとって進めていく。

編入前に、クラスの子もたちと、転入する子どもの国の挨拶を練習し、みんなで、その国の挨拶で迎えることも、不安な気持ちをやわらげる上で効果的です。

何より、教師自身が、帰国・外国人児童生徒のこれまで生活してきた国の文化や習慣等を素晴らしいものと認め、受容的な態度をクラスの児童生徒の前で示すことが大切です。

保護者への連絡・協力・働き掛けを進めましょう。

参照：Q1-3, 4

保護者との連絡について確認しておくことが大切です。

<例>連絡手段、連絡の取れる時間帯、仕事の時間帯  
間に入って連絡をしてくれる人、緊急時の対応 等

また、児童生徒に伝えた日々の連絡事項が、保護者にも確実に伝わるよう留意する必要があります。

<例>重要なプリントは、封筒に入れて渡す。  
プリントの重要な部分に「★」や「♥」、「important」等を付す。

教職員間で共通理解を図りましょう。

児童生徒の状況や指導上留意すべき事柄について、適宜、連絡や報告を行い、教職員間で共通理解を図ります。

【道内の実践】

「日本語指導通信」による教職員の共通理解の取組

道内では、日本語指導教員が、日本語指導の基本、学校生活への適応などについて、教職員で共通理解したい内容を「日本語指導通信」として定期的に発行し、全教職員で帰国・外国人児童生徒への指導に取り組んでいる学校があります。



### Q1-3 外国人保護者との連絡はどのようにすればよいですか。

**A** 「外国人保護者が日本語を上手に話せないので連絡が取れない。」「電話では伝えたいことがなかなか伝わらない。」「提出物が期日までに提出されない。連絡のおたよりを読んでくれているだろうか。」など、外国人保護者との連絡について困っていることがあるのではないのでしょうか。

外国人保護者との連絡については、地域や職場で間に入って連絡をしてくれる人を決めておくなど、確実な連絡方法を確認する必要があります。また、連絡方法について、具体的に外国人保護者に伝えるなどして安心感を与え、信頼関係を築くことも大切です。

#### どんな連絡方法がよいか、外国人保護者と相談しましょう。

文書を渡す際にどのような手助けがあるとよいか、文書以外に希望する連絡方法があるかなど、保護者に必要な情報が確実に伝わる方法を確認しましょう。

電話よりメールでの連絡や、アプリによる配信の方が伝わりやすい場合も考えられます。

文部科学省  
「かすたねっと」には、多言語に翻訳された様々な文書があります。  
<http://www.casta-net.jp/>

#### 相手の国の簡単なあいさつや単語を勉強してみましょう。

学級担任等が自分の国のあいさつを知っているだけで、保護者の方はとても安心した表情をします。とりわけ、英語以外の言語を母語とする保護者とのコミュニケーションの際には、相手の国の言葉や文化を尊重しながら対話することが大切です。

#### ゆっくり外国人保護者の方と話す機会をもちましょう。

片言の日本語や多言語翻訳システムを使用したやり取りでも、お互いに気持ちが少し伝わったと感じられた経験が、その後の信頼関係につながります。長期休業等を利用して、ゆっくり対話をしてみてはいかがでしょうか。



### Q1-4 あまり日本語が得意でない保護者とコミュニケーションをとるには、どうしたらよいですか。

**A** 基本的には、保護者の日本語のレベルや使用言語の状況によって、コミュニケーションの方法は変わってきます。保護者の言語使用状況を把握し、必要な情報が保護者に確実に伝わる方法を工夫する必要があります。

#### ほとんど日本語が理解できない場合は…

- ・多言語翻訳システムを活用する。
- ・英語や母語に翻訳した文書を渡す。
- ・身振り、手振りや実物を最大限に駆使したコミュニケーションを図る
- ・通訳派遣を依頼する。

#### ある程度日本語が理解できる場合は…

- ・文書等の大事なお知らせには、付箋をつけるなどして目立たせる。
- ・特に読んでほしい箇所に赤ペンやマーカーで下線を引く。
- ・プリント類に、やさしい日本語で簡単なメモを添える。
- ・プリント類の漢字にふりがなを振る。
- ・連絡帳は、保護者の日本語能力に合わせて書く。
- ・口頭説明に加えて、メールやアプリを用いた文字による情報配信を活用する。

### コラム

#### やさしい日本語と多言語翻訳システムの併用を

北海道教育大学函館校 准教授 伊藤 美紀

先生方は、日本語を母語としない保護者とのコミュニケーションに苦慮する場面も多いのではないのでしょうか。現在は、「やさしい日本語」と高精度な多言語翻訳システムが普及しており、これらを併用することで円滑な対話が可能です。特に日本語が全くわからない保護者には、翻訳システムを積極的に活用してみましょ。

翻訳システムを活用して対話をする際には、文を短く区切り頻繁に翻訳することが重要です。長文を一括で翻訳するのではなく、意味のまとまりごとに区切り、こまめに翻訳することで誤解を防ぎ、相互理解を深めることができます。また、相手と目を合わせることも大切です。言葉だけでなく、表情やジェスチャーも重要なコミュニケーション手段です。時間がかかっても、相手に寄り添う気持ちでゆっくりと進めましょ。加えて、日本語を外国語に翻訳する際には、語彙や文法を簡単にした「やさしい日本語」を使うことで、より正確な翻訳結果が得られます。通訳者の力を借りる場合も、同様です。

保護者には、初期段階からこうしたやりとりをとおして、学校は安心して相談できる場所であることを伝えましょ。これは帰国・外国人児童生徒の心の安定にも繋がります。やさしい日本語と多言語翻訳システムを効果的に活用し、保護者とのコミュニケーションを密にすることで、子どもたちの成長を力強くサポートできるはずですよ。